

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2025年2月3日

事業所名 PARCウィル伏見

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>			
	2 職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		安全に過ごせるよう、バリアフリー化されており、フロアにはクッションマットをひいています。1つの空間ではありますが、活動中とリラックス出来る時間で採光や音楽を調整し、場面にあった空間作りをしています。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		支援計画を立案し、目標に沿って支援が行えているか、定期的に評価しています。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		月に1回の研修会を実施しています。また職員で個別で研修を受けた際は、伝達講習を行い、すべての職員で共有しています。療育会議を定期的に行い、振り返りの場も設けています。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		個別支援計画に沿った支援を行うために、モニタリングを定期的の実施しています。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>			

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		週に1~2回の全体会議や各職種での会議、療法士・保育士での合同会議など、お子様の状況に合わせて活動プログラムを共有立案しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝のミーティングで支援内容や役割分担の確認を行い、ホワイトボードに記載しています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		翌日朝のミーティングで昨日の支援の振り返りと情報共有を行っています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		成長療育支援システム(HUG)を利用し記録に残しています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		3~6ヶ月に1回、モニタリングを実施しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			
関係機関	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		主治医と連絡を取り、情報共有を行っています。必要時同行受診もを行っています。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			

保護者との連携	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳や送迎時にご家族とお子様の様子を共有しています。また訪問看護を導入し、お子様の様子や保護者のニーズ、今後の課題などを話す機会を設けています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			講座のようなものは行っていませんが、ご家族がお子さんの対応で悩まれていることがあれば、その都度お話をお聞きし、解決策と一緒に考えていけるような体制をとっています。支援中や支援終了後、モニタリングの際など、スタッフにお声がけいただけたらと思います。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者参加型の夏祭りを開催し、短い時間ではありますが、保護者同士での情報交換の場を設けています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			月に1回おたよりを配布して活動内容や行事などをお伝えしています。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		必要に応じてマニュアルの見直し、作成を行っています。また、緊急時に備え、お子様の情報を1つのファイルにまとめ保管しています。発生を想定した訓練の実施や、消防署へ依頼し急変対応の研修も行っていきます。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に数回防災訓練を実施しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		会社全体での研修を定期的に行なっています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例集を作成するとともに、毎月1週目は事例の振り返りを行っています。	